

氏名（本籍）	ギ ソウビン WEI SHUANG BIN（中華人民共和国）
学位の種類	博士（芸術）
学位記番号	甲第139号
学位授与年月日	2020年3月23日
学位授与の要件	広島市立大学大学院学則第36条第2項及び広島市立大学学位規程第3条第2項の規定による
学位論文題目	中国現代アートにおける芸術表現の「光」と「影」 —蔡国強と艾未未の比較から—
論文審査委員	主査 教授 鰐澤 達夫 委員 教授 南 昌伸 委員 教授 関村 誠 委員 准教授 石松 紀子

論文内容の要旨

本論文では、中国現代アートにおける芸術表現の光と影がどのように起こったのかを、世界的に有名な二人のアーティスト、蔡国強(サイ・コッキョウ) (1957-) と艾未未 (アイ・ウェイウェイ) (1957-) の例を基に論じるものである。彼らの作品の特異性、また、それらの表現法の差異と、その形成に関わる双方の環境及び思想的背景を比較し、考察する。

本論文のタイトルに使用した「光」と「影」という言葉は、筆者の出身国である中国国内から見た、中国現代アートの発展状況の成り行き、同じ中国出身である蔡と艾の歩んだ道のりの対照性を表している。筆者が日本及びドイツに留学した際に、彼らの芸術家としての評価が中国国内と国外とで著しく異なることを痛感した。蔡は伝統的な火薬爆発によって偶然生み出される表現を主な手段として、中国の歴史伝統的文化の再評価と日常の動向を結合させ、独自の手法による芸術表現を考え出し、その芸術、創作、思想は中国内外でともに高く評価されている。一方、特に国外で高く評価されている艾は、中国の伝統的な椅子や陶磁器を用いて中国政府に対する批判的な芸術作品を発表している。その激しく、皮肉に満ちた作品は、中国国家の恥部を暴くかのような、隠喩によって形づくられている。彼の芸術は国内では評価の対象にすらなっていない。本研究では、なぜ蔡が「光」艾が「影」であるのか、彼らの経歴を具体的に辿りながら、明らかにしていきたい。

二人は 1957 年生まれの同い年、文革体験や国外留学時代、同じ国外でアートの活躍も続けていることがびたりと重なる。手法は違えども共に社会問題に的を絞った二人の主な表現手法である「破壊と融合」について考察する。さらに本研究では伝統文化を継承しつつ、社会の発展を称賛する作品がもたらす影響と、社会的批判をメッセージとする作品のもたらす影響を論じていく。

第一章では、中国の現代アートが発生した背景、発展の歴史をたどり、当時の中国人芸術

家たちは**芸術表現**の自由を求めるためにどんなことをしたか。まずその時代「文化大革命」の芸術に対する影響について述べる。そして文化大革命後に現れた「社会主義市場経済」社会に対応すべく、「85 新潮美術運動」が起きた。特殊な政治体制と社会不安定で多数の芸術家が海外に移住した。当時、同じ文化大革命の体験をした蔡と艾は、その時期から国外に留学し、二人とも芸術の道を歩み始めた。

第二章では、二人の成長の背景を比較し、文化大革命の影響の違いが、二人のその後の芸術の道にも大きな変化をもたらしていることを述べる。二人の父は共にその時期の文人である。しかし二人の家庭背景と教育は全然違う。蔡が生まれた福建省泉州市は、中国の政治の中心地から遠く離れた都市であり、中国の伝統的な文化を保留し、父たちの世代は毛沢東思想の薫陶を受け、社会主義の新しい時代の美しい生活を夢見ていたと言える。そして父と一緒に北京で生活した艾は、文化大革命が父にもたらした屈辱と失望から大きな影響を受けたと思われる。

第三章では、蔡と艾の 2008 年までの芸術活動を比較分析し、二人の芸術表現の手法、思想的背景、また国内外での評価の違いについて述べる。1980 年代、蔡は日本に留学し、芸術の勉強や、日本の各地域でアートプロジェクトを行い、9 年後にはアメリカに移住している。同じく艾も 80 年代からアメリカに留学し、アメリカで現代美術に触れ、自由民主主義の様々な思想や行動を身につけた。日常生活用品をモチーフにして作品を制作した。12 年後に帰国し、北京で活動している。また、ドイツでも展覧会を開催している。二人とも日本で大きな展覧会を開催したことで知られている。

第四章では、2008 年からの二人の芸術の方向性の違いについて述べる。蔡は北京で開催されたオリンピックの開閉式の芸術指導を担当し、作品《歴史の足跡》を創作し、更に中国で高く評価され、政府に推賞された芸術家となっている。一方同じく 2008 年、艾は中国で発生した四川地震の現地調査に関わり、被害者に関する多くの情報がウェブサイトで公開され、政府を批判する立場をとり、政府にサイトをブロックされた芸術家となった。二人の芸術の道は両極化したのである。

第五章では、蔡と艾の芸術表現をたどりながら、二人の創作形式の特徴を分析している。二人のアートに対する共通点と相違点を比較しながら分析する。また芸術表現に対する芸術教育、芸術表現の手法、芸術創作の形式の違いと二人の芸術表現に共通する破壊と再構築という手法の角度から分析する。

結論では、中国を代表する二人のアーティストは、まるで光と影を纏っているようであり、光と影とは同じ出身国である筆者から見た中国現代アートの発展状況の成り行きや、蔡と艾の芸術表現の対照性を表していることを主張する。二人とも実に大きな成果を挙げている。芸術作品は国際的に認められている。本論文では二人の芸術創作の視点が異なっていることを明確にした。蔡は火薬で中国の伝統文化の継承及び社会発展を前向きの視点で制作活動を続けている。艾の創造は多元であり、総括しにくく、彼は同じく中国の伝統的な文化を基にして批判的な視点で中国の社会体制の改革を意図した制作活動を続けている。二人のアート活動は国境を越えて展開しているのである。彼らの芸術に対する思想の二極化は新時代を生きる若手芸術家にどのような啓発を与えるのだろうか。また中国現代アートの発展にどのような影響を与えるのだろうか。さらなる探求も必要になるであろう。

論文審査の結果の要旨

本論文は、中国本国を出て活動し高く評価されている同年生まれの二人のアーティスト、蔡國強と艾未未を比較しつつ、双方の表現と思想の特異性や差異を見極めることにより、中国現代美術の光と影の交錯した状況を問題化している。第1章では、社会問題を主題とする創作など中国の現代アートの展開の歴史を概略的に確認している。第2章では、蔡國強と艾未未の少年時代から青年時代までを比較し、第3章では、その後の日本やアメリカへの留学の中で二人が活動を広げていった経緯を芸術表現の手法や彼らの思想を比較しつつ報告している。第4章では、2008年の北京オリンピックへの関与や四川大地震への対応などから、蔡國強が政府に推賞されていくのに対して、艾未未は政府に批判的になっていき、二人の芸術の方向が両極化していく過程を具体的な代表的作品や活動を分析しつつ考察し、さらに第5章では、二人の芸術の創作形式の特色をまとめて比較している。蔡國強と艾未未の出自と環境の相違も踏まえた上で、彼らの芸術活動の道筋を詳細に辿って、中国伝統文化を受け継いでいる蔡國強の活動に光の側面を、表現の自由と抑圧など社会問題に関わっていく艾未未の活動に影の側面を見てとるなど対比的に考察し、両者の芸術創作の特質と方向性の違いを的確に捉えて浮き彫りにした論考として評価できる。中国からの留学生という申請者自身の立場から、今後の中国の現代アートのあり方についての強い問題意識のうかがえる議論展開となっている。以上のことから、本申請において論文合格とした。